

## 平成 23 年度知床五湖利用調整地区モニタリング実施計画（案）

**1. モニタリングの意義**

知床五湖利用調整地区では、原生的な自然景観と生態系の保全、利用者ニーズに応じた体験の提供、満足度の向上を目的として利用適正化計画に基づく利用の調整を実施することとしている。知床五湖における利用の調整をよりよい取組にしていくために、利用適正化計画に定めた目標の達成状況について、この利用の調整による効果をモニタリングし、その評価を元に順応的に見直しを行う必要がある。

本実施計画は、利用の調整による効果を測るための調査項目の設定と、その手法や役割分担、検証について定めるものである。

**2. 指標等の設定**

モニタリングの指標としては、自然環境への影響の観点から、植生とヒグマに関する指標、自然体験の質の観点から利用者に関する指標を設定する。

**（1）自然環境への影響の程度に関する指標**

## 1-1. 利用による自然植生への影響を測る指標

- 地上遊歩道の歩道幅、路肩からの高さの差
- 地上遊歩道の周辺植生の被度・高さ

## 1-2. ヒグマ等の野生生物への影響を測る指標

- 地上遊歩道における人とヒグマの遭遇件数
- 目撃されたヒグマの質

**（2）自然体験の質・利用者満足度に関する指標**

## 2-1. 利用の状況を測る指標

- 利用者数カウント
- 主要展望地等での滞留状況

## 2-2. 利用者の満足度を測る指標

- 利用の満足度等の意識
- 利用の再訪意欲

## 2-3. 広報の効果を測る指標

- 利用者への制度の周知度、情報を得た媒体

## 2-4. 施策の社会経済的効果を測る指標

- 駐車台数
- 宿泊者数
- 地上歩道立入に対するガイド利用の割合

### 3. モニタリング項目と調査手法

#### （1）自然環境への影響の程度に関する調査

##### 1. 歩道幅等の計測調査

方法：知床五湖地上遊歩道沿いの定点ポイント 15 箇所程度について、歩道の幅と、歩道の縁と中の高低差を計測する。ポイント設定に際しては廃道とする 1 湖畔にも定点ポイントを設け植生の回復状況も把握することとする。

実施頻度：年 2 回程度（平成 22 年度の調査時期に合わせ、毎年同時期に調査を実施する）

実施主体：調整中

##### 2. 定点撮影による歩道周辺植生の変化確認

方法：知床五湖地上遊歩道沿いの定点ポイント 15 箇所程度について、定点にスケールを置きながら写真撮影を行い、植生の被度、植生高について写真にて記録する。

実施頻度：年 2 回程度（平成 22 年度の調査時期に合わせ、毎年同時期に調査を実施する）

実施主体：調整中

##### 3. 定点定期撮影による主要展望地の混雑状況・踏み入れ状況の確認

方法：二湖展望台周辺にインターバルカメラを設置し 15 分ごとの定期撮影を行い、混雑状況や踏み入れの状況などを写真撮影から把握する。

実施期間：4 月 22 日～5 月 9 日、8 月～9 月、10 月 3 連休、自由利用期の数日

実施主体：調整中

##### 4. ヒグマの遭遇件数・状況

方法：知床五湖フィールドハウスなどでヒグマと遭遇した者から聞き取り等を通じてアンケート記入・作成をする。ヒグマとの遭遇件数の把握やヒグマの行動段階の評価を行う。

実施期間：4 月 22 日～11 月上旬（フィールドハウス開館期間中）

実施主体：指定認定機関・フィールドハウス窓口担当

#### （2）自然体験の質・利用者満足度に関する調査

##### 1. 立入数調査

方法：①フィールドハウスにおける立入認定手続きの結果から利用人数、団体数、ガイド同伴ツアー数を集計する。②登山者カウンターを大ループ・小ループ・二湖展望地分岐付近、高架木道入口に設置し、地上遊歩道と高架木道の立入人数と利用ルートを把握する。

実施期間：①5 月 10 日～10 月 20 日②4 月 22 日～11 月上旬

実施主体：①指定認定機関②環境省

##### 2. 駐車場等利用状況調査

方法：①駐車場管理者による駐車台数、渋滞発生時間・状況などの記録②駐車場取り付け道にインターバルカメラを設置し、定点定期撮影を行い、渋滞状況等を把握する。

実施期間：①4 月 22 日～11 月上旬②GW、7 月～9 月

実施主体：①自然公園財団②調整中

3. 定点定期撮影による主要展望地の混雑状況・踏み入れ状況の確認（再掲）

4. 意識調査

方法：①郵送回答方式のアンケートを作成し、知床五湖園地にて配布し郵送で回収する。平成 22 年度調査のアンケート項目を軸とし、地上遊歩道と高架木道とそれぞれのルートの利用者に対し実施する。②予約システムの感想投稿欄を整備し、ヒグマ活動期のツアー参加者に ID・パスワードを発行して、Web 上で満足度・安心感・再訪意欲等のアンケートを実施する。

実施期間：①平成 22 年度の調査時期に合わせてとともに、平成 22 年度に実施できなかった自由利用期シーズンの調査も検討する②ヒグマ活動期

実施主体：①調整中②調整中

5. 社会経済的指標データの収集

方法：来訪者数、宿泊者数など観光情報データをまとめる

実施主体：調整中

#### 4. モニタリングデータの評価

知床五湖利用調整地区のモニタリングデータは専門家（北海道大学大学院農学研究科愛甲哲也氏・庄子康氏ほか知床五湖の利用のあり方協議会に参画する専門家）による分析と評価を得た後、協議会に報告する。知床五湖の利用のあり方協議会では、当該結果を踏まえ、利用適正化計画等の見直しを行う。

モニタリングは同一の指標にて長期継続しての実施することが望ましいが、指標の設定が新しく、効果測定が不十分であることから、専門家によるモニタリング指標に対する評価・確認を行い、指標としての効果を検証する。場合により指標の見直し、新たな指標の選定を行う。また、新たな課題に対しては新たなモニタリング指標の設定を検討する。